

Information -

■THE TOWER HOTEL NAGOYA
連絡先／052-953-4450
住所／愛知県名古屋市中区錦
3丁目6-15 先
https://thetowerhotel.jp/

／
introduction
／

時間が作りあげた価値を讃え、 未来につなぐリノベーション。

西洋に比べてリノベーション文化が遅れていた日本でも、近年注目すべきリノベーション建築が増えている。その潮流と事例について建築史家の五十嵐太郎さんに伺った。

Photo:Satoshi Imai, Chisato Nishikawa (P7), © AMEBA HOLDINGS INC. (P6 左・P8・1), ©Shinya Kigure (P9・6), Forward Stroke inc. (P9・7), text:Yoshiko Nagashima



近

年、古くからあった建物のリノベーションで話題になるホテルや商業施設などが、日本でも増えてきた。その流れについて五十嵐太郎さんはこう語る。

「日本では、使えなくなった建物は壊して新しいものを建てるのが一般的でした。一方、石造りの歴史ある建造物が至る所にある西洋では、昔からリノベーションして使い続けることは当たり前の文化です。その違いは『廃墟になる自由』があるかないかと考えます」

例えば、パリのオルセー美術館。元は1900年のパリ万博の際に建設されたオルセー駅だったものが、20世紀前半に駅舎としては使われなくなった。その後、半世紀近くもパリの中心地で廃墟として放置。日本の都会ではあり得ないことだ。それが、1980年代に近代美術の再評価と共に美術館として再生された。使い方の発見を将来に委ねて、廃墟として残されたことで可能になったことだ。

「ここ20年ほどで日本でもリノベーション建築が増えてきた背景

には、戦後の開発が一通り整った後にバブルがはじけて、新築よりも再生の検討が必要になったこともあります。それに加え、多くの日本人が海外に行くようになり、西洋で歴史的建造物が観覧用ではなく普通に使われている様子を見る機会が増え、古い建物には新築にはない『時間が作りあげた価値』があることに気づき出したこともあると思います」

その代表例のひとつが、2020年10月に「ザタワーホテルナゴヤ」としてオープンした、名古屋のテレビ塔のリノベーションだ。

1954年に日本初の電波塔として建てられ、名古屋のシンボルとして地元の人に愛され、国の登録有形文化財にも指定されている。2011年にデジタル放送

P6右.1954年の開業当時の名古屋テレビ塔。東京タワーも手掛けた内藤多仲の設計。**左.**ザタワーホテルナゴヤの客室。テレビ塔の鉄骨がむき出しで突き抜けている。**P7.**客室は15室のみ。2つのレストランとカフェ、ホールを備えたスモールラグジュアリーホテルだ。